



イベントなど

## 講演会 縄文の「顔」を読み解く

概要	令和6年5月15日に本市の重要文化財に指定された「表裏型顔面把手」（愛称：ザマロン）の発見・調査の過程や縄文時代の顔の表現などに関する講演会を実施します。
主催	座間市教育委員会、神奈川県考古学会
日時	3月14日（土）13：00～17：00 ※開場は12：30から。
場所	サニープレイス座間 3階多目的室
キャッチコピー	縄文土器の表にも裏にも顔？土器の顔、縄文の顔から当時の芸術を読み解きます。
内容	蟹ヶ澤遺跡で発見された表裏両面に顔が描かれている「表裏型顔面把手土器」をご紹介するとともに、土偶などにみられる「顔」の表現から、縄文時代の精神文化を探ります。 報告「表裏型顔面把手の発見と調査・研究、そして意義」 講演①「縄文時代の顔の表現に見る精神文化—土偶大人仮説の提唱—」 講演②「縄文土器に見る並列的構造—両面顔面把手・身体象徴への操作を考える」 講演③「顔の造形表現は何を意味してきたのか—心理学的に考古資料と古代芸術を読み解く」 また、当日は3Dプリンターで制作した複製体に触れることができます。
講師	報告 市教育委員会教育部生涯学習課 主事 佐柄雄斗 講演① 設楽博己さん（東京大学、大学院人文社会系研究科（文学部）名誉教授） 講演② 中村耕作さん（国立歴史民俗博物館研究部考古研究系准教授） 講演③ 川畑英明さん（慶應義塾大学文学部人文社会学科人間関係系教授）
定員	150人（先着順）

参加費	無料 ※資料代：1,000円（別途必要）。
その他	市指定重要文化財「表裏型顔面把手」の愛称「ザマロン」は令和6年10月に一般募集し、決定しました。現在キャラクターについても、商標登録申請中で、本年4月以降活躍する予定です。
問い合わせ先	教育部 生涯学習課 TEL 046 (252) 8431 FAX 046 (252) 4311

